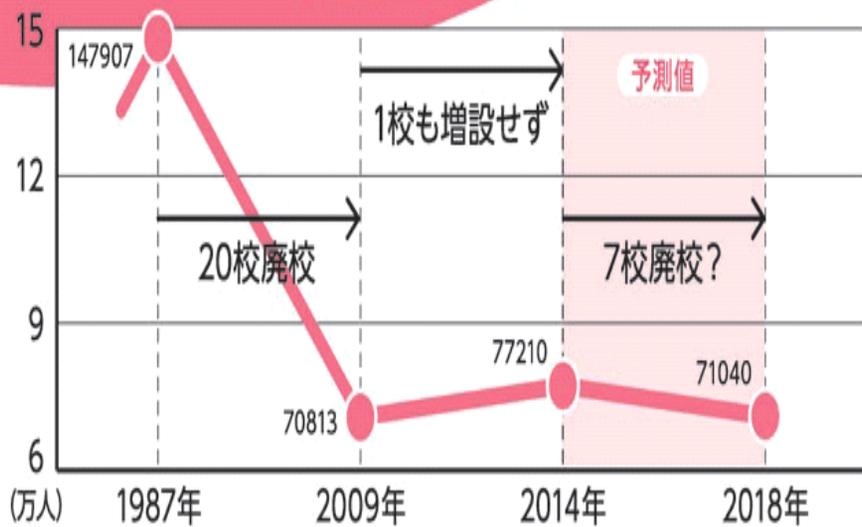


私の高校をつぶさないで!

大阪府公立中学校卒業生数変動と予測



公立高校はセーフティネットです

大阪府教育委員会は、九月五日「公立高校統廃合等案」を示しました。

これは、「維新の会」主導で作られた「3年連続定員に満たない高校は再編整備の対象」の条例、「2018年度までに府立高校、大阪市立高校あわせて7校程度を募集停止」の府教委再編整備計画に沿ったものです。

なぜ、子どもたちから「学ぶ権利」を奪う高校つぶしを推進するのでしょつか。【下図参照】

府教委の考え
定員割れが続くから募集停止(廃校)は仕方ない
いいえ 公立 + 私立の総定員は
そもそも定員割れが前提です

大阪では、以前に「中学浪人」が出た教訓を踏まえ、5年前から定員割れを前提に、募集定員を決めています。今春の高校の募集定員は公立 46170人

私立 25255人

合計 71425人です。

それに対し、府内進学予定者は67490人です。

つまり、3935人分定員が上回っています。

それなのに「定員割れ」を統廃合の理由にするのは大問題です。

西淀川高校は、平成26年度の定員は、前年度比+40人

府教委の考え

生徒減なので、7校程度の募集停止(廃校)は仕方ない

そんなとってつけたような理由で公立高校をつぶさないで下さい

確かに生徒数は減少しています。上のグラフ参照

公立中学校卒業生数は、09年度と14年度では6397人増でした。

この間府教委は、高校を新設することなくクラス増等で

した。もしこれが、前年度と同じ人数なら、定員割れではありませんでした。

実際、鹿児島県や山形県では約半数の高校が「定員」を下回っています。

大阪では、維新府政のもと学区が撤廃され、進学指導特色校が設置されるなど、競争強化、偏差値による高校の序列化がすすめられてきました。志願倍率による高校つぶしは、競争至上主義で下位に置かれた子どもたちを切り捨て、地域の高校で学びたいと願う子どもたちの「学ぶ権利」を奪うものです。

これを乗り切りました。

18年度の公立中学校卒業生数でさえ、09年度を上回っています。

大阪の全日制高校は公立、私立、国立あわせて255校です。

【 高校つぶしの計画・案 】

高校	年度	2016	2017	2018	2019	2020
池田北 (池田市)		募集停止		廃校	x	x
咲洲 (住之江区)		募集停止		廃校	x	x
西淀川 (西淀川区)			募集停止		廃校	x
北淀 (東淀川区)				募集停止		廃校
				新校募集		
大正 (大正区)				募集停止		廃校
				新校募集		
泉尾 (大正区)				募集停止		廃校
				分校化		
能勢 (能勢町)						

今後の生徒減少は、高校統廃合でなくクラス減の対応で十分可能です。

高校専門部会でも、「他府県と比較して大阪には大規模校が多い。学級数を減らすことで十分対応できる」「今後の変動要因が大きいし、学校は一旦つぶすとあとで建てるのは困難。」などの意見が出されました。